よむよむ

神川町立青柳小学校
２０２１．１０．27
図書室便りＮｏ.１０

よむよむ隊結成！

通常日課の火曜日・水曜日・金曜日の昼休みに図工室で読み聞かせを行っています。読み聞かせを行ってくれているのは、4・5・6年生の「よむよむ隊」です。毎回盛況で、たくさんの子供たちがお話を聞きに集まります。「よむよむ隊」のメンバーは、低学年にも分かりやすい絵本を探し、ゆっくりと、大きな声で読んでくれます。聞きにきた子供たちは、すぐにお話の世界へ入り込んで、お話にひたっていました。

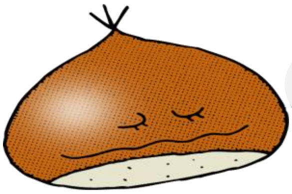
みなさん、よむよむ隊へ入って、一緒に活動しませんか。また、おすすめの本を図書委員と同じように昼の放送で紹介しませんか。

興味のある人は図書担当へ声を掛けてください。お願いします。

読書感想画コンクールについて

今年も読書感想画コンクールがあります。「読書感想画って、どんな絵？」と思いますよね。読書感想画とは、本を読んで「「おもしろい」「楽しい」「よかった」「いいな」と感じたことや印象をもとに表現した絵のことです。もちろん絵だけではなく、感動したことやどういう思いで、この絵を描いたのか２００字以内で感想も書き、この二つがそろっての応募となります。

コンクールは、絵を描くのが好きな人、読書が好きな人、誰でも応募できます。ぜひ、挑戦してみてください。締切は、12月17日です。応募する人は、それまでに作品を担任の先生へ提出してください。



青柳小学校職員による おすすめの本の紹介

１０月１１日月曜日の昼の放送では、小賀野先生のおすすめの本を紹介しました。

『読書の秋』ですね。今日、先生がお勧めしたい本は、言わずと知れた名作です。
本の名前は、『ファーブル昆虫記』と言います。えっ、昆虫？そうです、虫の話です。本にある『はじめに』の部分を読みます。

「みなさんは、おかあさんのおなかのなかから、うまれてきて、おちちをのんだり、ごはんをたべたりして、大きくなったのですね。こんちゅうは、どうでしょうか。こんちゅうは、どんなふうにしてうまれ、どんなふうにしてそだっていくのでしょう。どんなくらしかたをしているのでしょう。ファーブルというおじさんは、そういうことを、くわしくしらべて、たくさんのおもしろいおはなしをかきました。それが、この『こんちゅう記』なのです。」（引用）

先生は、特に虫が好きな訳ではありません。では、なぜこの本をおすすめするのか。それは、自分の知らなかったことがびっくりするくらいたくさん書いてあるからです。

みなさんは、夏にセミを見たことがあるでしょう。そして、抜け殻を見付けたこともあるでしょう。でも、どれだけセミのことを知っていますか。抜け殻の中にいたセミの幼虫は、どこからきたか知っていますか。正解は、土の中です。「そんなの、知ってるよ。」という人、まだあります。セミにもセミの幼虫にも、口にストローがついています。セミは、木の汁をすいます。では、幼虫は土の中にいるのに、どうしてストローをもっているのでしょうか。不思議ですね。また、セミの横で、動かずにラッパを吹いたり、大声を出したりするとどうなるかしっていますか。ファーブルおじさんは、セミの横で大砲まで鳴らして、調べたそうです。気になりますね。答えは、全部この本が教えてくれます。

さらに、先生がこの本を好きなのは、なんと言っても、人間よりあんなに小さい虫が、懸命に生きようとしている姿に感動するからです。雨の日も風の日も、知恵をしぼって、何年もかけて、私たちの知らない土の中や草むらや夜の間にも、ひたすら生きようとしています。この本を読むと、実際にはなかなか見られないことも、まるで目の前で見ているかのようにわかります。

『ファーブル昆虫記』は、図書室の 800 番にあります。全部で 7 巻です。入り口を入ってすぐの 900 番の棚には、『幼年版　ファーブルこんちゅう記』もあります。こちらは、1 年生でも読める簡単なもので、全部で 10 巻です。セミだけでなく、アリやハチ、カマキリやバッタなどの話もあります。どれから読んでも大丈夫です。虫が好きな人は、絶対に読んだ方がいいです。虫が好きではない人も、今まで知らなかったことがわかり、見方が変わるかもしれません。是非、図書室で手に取ってみてください。今まで読んだことのなかった本にもチャレンジして、新しい世界を広げましょう！